

上京

史蹟と文化



「新しいまちづくり」と

地域を愛する心



上京区一三〇周年記念事業実行委員会

委員長 高瀬博章

私たちのまち上京区は、歴史に育まれた文化と伝統が暮らしの中に息づく成熟したまちであります。しかし、これからは時代の流れとともに、世代を超えた新しい課題を考えていかねばなりません。

上京区一三〇周年記念事業を進めるにあたって、私にはひとつの夢がありました。それは、「自治・福祉・防災の三位一体」をキーワードとした「新しいまちづくり」に取り組みないかという事です。

「新しいまちづくり」には、自分たちが住んでいる地域を誇りに思い、地域を愛する心が必要で、上京区は世界に誇る文化と歴史の宝庫であります。その中で暮らす区民の方々が、自分たちのまち、文化、生活に

愛着を持ち、となり近所で声をかけあいふれあうことが、これからの文化と伝統の支えになっていきます。「地域の子どもは地域で育てよう」、「おひとり暮らしの高齢者を見守ろう」など、たくさんの方と交流と支え合いが、上京区のいろいろな場所で行われています。今後も様々な記念事業が行われますが、それらを引き継ぎ、もつともつと上京を好きになっていただければと思います。

上京区民が子どもからお年寄りまで多世代交流することにより、上京区を愛する人々の地域に蒔かれた夢となつて、「上京に住んでいてよかったな、これからも住み続けたいな」と思えるまちづくりになることを願っています。

上京区一三〇周年と上京の今後のまちづくりに向けて

上京区長 北條和仁

昨年三月十四日のオープニングイベントから始まった上京区一三〇周年を祝う記念事業に多くの区民の皆様のおかげで、心から感謝を申し上げます。

私は、この一年間の様々な事業を通じて、上京区がもつ素晴らしい文化力や地域力を再確認しました。区民の皆様にとつても、上京の歴史と伝統に誇りと愛着を持ち、未来に向けて守り伝えるべきものは何かを考え

上京区の伝統文化の継承とさらなる文化の普及、向上を願って

上京区文化振興会会長 小谷一之

上京区文化振興会としましては、上京区一三〇周年記念事業の開催に当たり、当会の会員がそれぞれの分野においてその力を発揮することができたことと思っております。

春と秋の上京茶会、さらには、上京区の音楽家たちによる記念音楽会の開催等を通じて一三〇周年記念事業に貢献できたものと自負している次第です。さらに、「上京

る機会となれば幸いです。

今年も、区民の皆様を思いを、一三〇周年の記念事業に位置付けている次期上京区基本計画の策定や新総合庁舎の基本計画、基本設計の事業に生かし、区民の皆様からいただいた貴重な御意見や御提案をもとにしながら、上京区の個性を生かした魅力ある新しいまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

区制一三〇周年を契機として、次の十年を見据えた様々な取組を行い、上京区の更なる発展に向けて区民の皆様とともに歩んで参りたいと考えておりますので、何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

「史蹟と文化」を一三〇周年記念号として発行し、とりわけ、本号におきましては上京区在住の書作家、吉川蕉仙先生に本冊子の表紙の題字をお願いしましたところ、快くお引き受けいただきました。この「上京一史蹟と文化」を一層格調高いものとしていただいたことに感謝しております。

本号においては、十年後にもこの一年間の足跡を残すべく、一三〇周年記念事業を振り返る特集記事を掲載し、特別保存版として後世に残したいと考えております。結成から五〇年余の歴史を有する上京区文化振興会では、今後も本誌の発行をはじめとする文化的な事業を通じて、上京区の文化振興に貢献してまいります。

●表紙の題字 吉川蕉仙先生

上京区130周年を記念して、本誌表紙の題字を上京区在住の書家 吉川蕉仙先生よしかわしうせんにお願いし、揮毫きごうしていただきました。先生は京都学芸大学（現京都教育大）卒、学生時代より日展に入選入賞を重ねられ、平成19年には内閣総理大臣賞を受賞されました。

現在は京都橘大学名誉教授、日展評議員、京都書作家協会顧問等を務められ、活躍されています。

上京区一三〇周年記念事業

オープニングイベント（三月十四日、金剛能楽堂）



生田流宮城社麗調会による箏曲演奏にはじまり、高瀬実行委員長、北條上京区長、門川京都市長の挨拶の後、冷泉貴実子氏による記念講演と茂山千五郎師による記念狂言「那須語」の上演が行われました。鏡割りや振る舞い酒もあり、一三〇周年の幕開けを多くの区民が祝いました。

春の上京茶会（五月三十一日、大本山妙顕寺）



雨上がりの木々の緑が「光琳曲水の庭」や「龍華飛翔の庭」などの庭園に美しく映える中、表千家の懸釜による二席のお茶を味わいながら、穏やかな初夏のひとときを過ごしていました。

京都サンガF.C. 応援バスツアー（七月二十六日、西京極）



上京区民一三〇組を招待した京都サンガF.C. を応援するバスツアーが開催されました。会場入口前の特設テントでは、日赤・共募のパネル展、選手サイン入りサッカーボールなどが当たる抽選会、上京区の主要産品の一つである「西陣織」の小物の展示販売が行われました。

上京新能（九月十八日、白峯神宮）



四十五回目となる今回は、第一部で、各社中による舞囃子、仕舞、独調、琴演奏が披露され、火入れ式に始まる第二部では、いちひめ雅楽会舞楽「延喜楽」、宮城社・麻ノ会琴演奏「和風楽」、観世流舞囃子「融」、大蔵流狂言「水掛簀」、金剛流能「花月」などが上演されました。かがり火がゆれる中、幽玄の世界を堪能する夕べとなりました。

上京区民ふれあい文化大学「やさしい写真講座—上京の風景をキレイに撮ろう—」



上手に写真を撮るための技術やカメラの操作などについて、スライド写真を使ってわかりやすく説明を受けていただきました。引き続き、紅葉のはじまる京都御苑内を散策しながら写真撮影を行い、講師からアドバイスをいただきました。

上京区民ふれあいまつり2009（十月三十一日、二条城北小学校）



各学区・団体による飲食・遊びコーナーや、特設ステージでの二条城北小学校と二条中学校の児童・生徒による演技・演奏などが行われ、好天のもと大いに賑わいました。上京区マスケットキャラクター「かみぎゆうくん」が登場し、また、「上京のおばんざい」を紹介する食育のコーナー、KBS京都による会場からのラジオ生中継などが行われました。

秋の上京茶会（十一月八日、御霊神社）



秋晴れの穏やかな一日となったこの日、裏千家の懸釜により開催されました。会場となった御霊神社は、その発祥を平安遷都の頃に遡り、神社の祭礼は、京都の夏祭りに多くみられる御神霊をお祀りする、御霊会の始まりとされています。多くの人々から親しまれ、敬われている「上御霊さん」で、歴史を感じながらいただくお茶は、味わい深いものとなりました。

上京区ウォークラリー（老舗と史蹟めぐり）（十一月二十九日）



上京区内の老舗と史蹟を歩いて巡りながら食文化や歴史に触れることができました。上京区を三つのブロックに分け、参加者はそれぞれのコースのチェックポイントを通ってゴールの二条城を目指しました。

東コース：上御霊神社↓嵐山寺、護王神社、本田味噌、澤井醤油本店、堀川
せせらぎの道など

中コース：扇町、天宮公園↓表千家、裏千家、造酢林孝太郎の店、織成館など
西コース：千本間魔堂↓千本釈迦堂、北野天満宮、大將軍八神社、佐々木酒造など

(十一月三十日～十二月四日、上京区総合庁舎)

文化・芸術に関わる活動をしてもらえる区民の作品発表の場として開催されました。洋画、能面、生け花、書道、写真など子どもから高齢者まで幅広い年齢層による作品約一〇〇点が展示されました。



上京区民文化フェスティバル(一月十七日、同志社大学寒梅館ハーディーホール)

世代を超えた多くの区民が参加し、日頃の活動を発表する事業として、区民文化フェスティバルが開催されました。ダンス、合唱、バンド演奏など、十五組の出演者による華やかな舞台が繰り広げられました。また、あてやかな西陣織の着物を着用したミスキャンパス同志社の学生たちによる着物ショーも行われました。



上京区の音楽家たちによる 上京区一三〇周年記念音楽会

(二月二十八日、京都こども文化会館)

上京区の音楽家たちが奏でる、伝統と文化の薫るまち・上京ならではの音楽会。上京区一三〇周年記念委嘱作品「華音櫻來^{かのんやうらい}」(作曲・榎田朕之扶氏)を上京中学校吹奏楽部が世界初演。森悠子さん(ヴァイオリン)、樋上由紀さん(ピアノ)、上京コール・アミ(コーラス)、上京中学校吹奏楽部(吹奏楽)の皆さんが演奏。



最優秀賞「木洩日」

初代上京区役所跡地石柱の設置 (三月七日、中立売通小川角)



記念碑(石柱)設置予定地

上京区一三〇周年記念式典 (三月七日、同志社大学寒梅館ハーディーホール)

区内の隠れスポットや自分の好きな場所など、上京区に息吹く魅力や地域への親しみやすさが伝わる写真を募集しました。京都市内外から二百を超える応募があり、その中から最優秀賞、優秀賞、佳作等十八点が選ばれました。(審査委員長 水野克比古氏)

明治十二年三月十四日、郡区町村編制法に基づき京都府上京区が誕生。当初は京都府庁内に区役所が仮設されましたが、初代上京区長杉浦利貞氏等の尽力により、中立売通西洞院西入に敷地が確保されました。初代上京区役所は明治十六年七月一日に開庁し、昭和十三年七月までこの地で区政が執り行われました。

一三〇周年の節目の年のフィナーレを飾る記念式典を開催。約八〇〇名の区民とともに一三〇周年を祝い、上京区において功績のあった個人・団体を表彰するとともに、千玄室氏(茶道裏千家前家元)による記念講演(テーマ「まちを愛する心」)を開催。



上京区マスコットキャラクター「かみぎゅうくん」

上京区のマスコットキャラクター「かみぎゅうくん」は、上京区のシンボルマークを頭につけ、世代を超えて子どもから大人まで親しまれる、雅(みやび)で愛くるしいキャラクターです。牛は北野天満宮にもゆかりがあり、「かみぎゅうくん」は上京区と牛(ぎゅう)をもじって名付けられました。全国からデザインと愛称を募集し、その中で最優秀賞に選ばれたキャラクターです。



上京区区旗 (西陣織)

群馬県産の最高級の絹糸で、爪搔本綴織の技法を用いて、西陣織工業組合により製作されました。旗の中央には上京区のシンボルマークがデザインされています。



※紙面の関係で、一部の事業を載せていません。

京都御苑の変遷に見る 上京区二二〇年

— 京都市歴史資料館協賛 —

前号では上京区全体の様子が百三十年の間にとのようにな変わったかを、古地図で表してみました。今回は、その中でも特に京都御苑に目を向けてみます。京都御苑ほど大規模にがらりと様相が変わったところは、上京区内にはありません。

■公家町の発展

上京区の真ん中(よりは少し東)に大きな空間を占めているのが京都御苑です。南北一・三×東西〇・七キロメートルの国民公園で、その中に京都御所があるのはご存知のとおりです。花のころはさなり、夏は木陰の涼み、秋は錦繡と呼びたい紅葉、冬は寒空に鳴く

からすの声にも風情があります。

京都御苑が誕生したのは、上京区誕生とほぼ同時期、明治十一年(一八七八)のことです。ただし、無から誕生したのではなく、誕生以前の歴史(ちよっとおかしな表現ですが)が長いのです。この歴史を語らずに京都御苑を語ることはできません。京都御苑の核

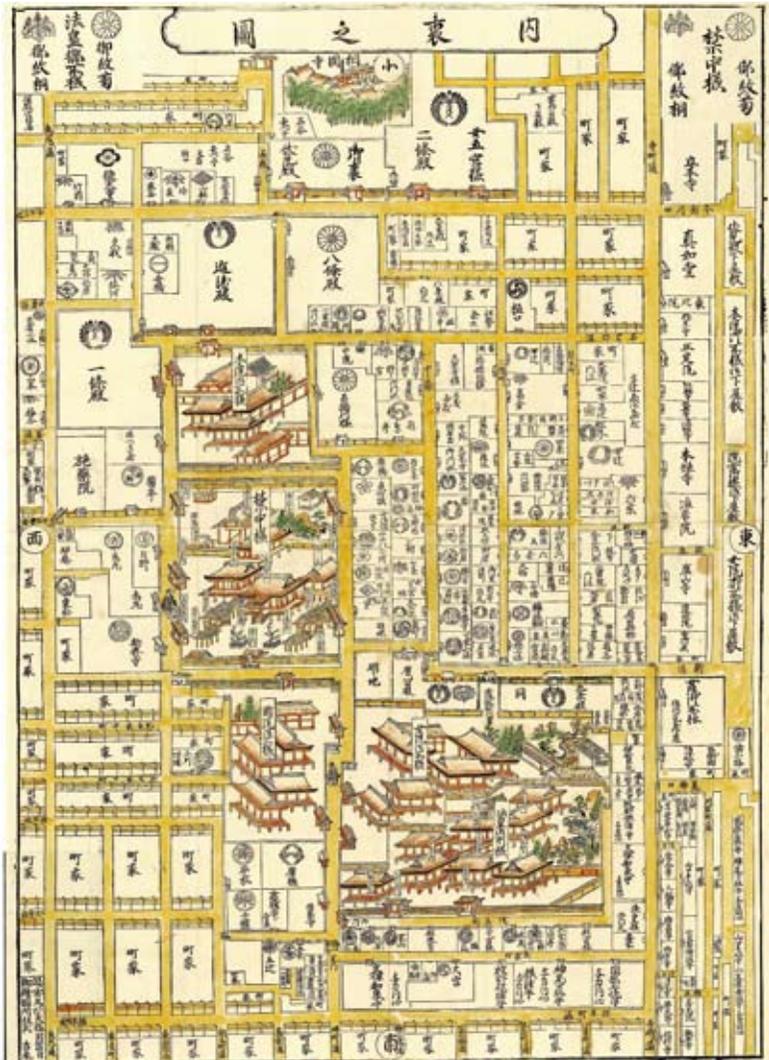


図 1 新改内裏之図 (延宝 5 年)

になってるのが京都御所です。江戸時代以前には内裏とか禁裏とか禁裏御所と呼びました。京都御所というのは新しい呼び方です。そのまわりに公家の邸宅が並んでいたのが江戸時代の姿です。公家が住んでいたのが公家町と呼びますが、九門の内とか御築地内とい

う呼び方もありました。現在の地に内裏が落ち着いたのは十四世紀中頃です。それまでは天皇の母方の実家を内裏として使い、市中を転々としていたのですが、光厳天皇が元弘元年(一一三二)に東洞院土御門(上長者町東洞院)の邸宅で即位



図 2 拾遺都名所図会 (江戸時代中頃)

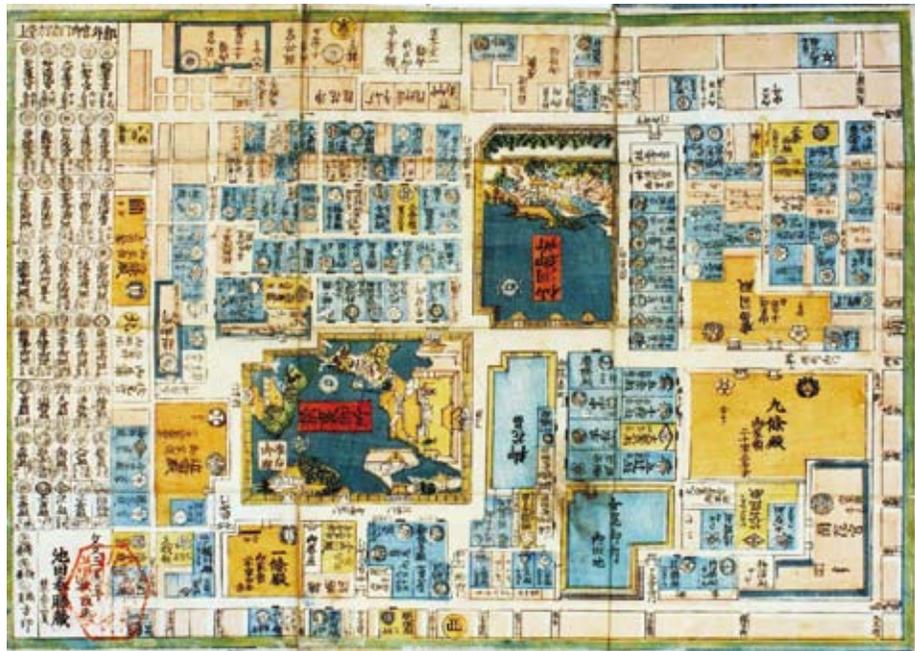


図 3

し、それ以降この地が土御門御所と呼ばれ、内裏に定められました。いまの京都御所の東南部に相当します。信長や秀吉や家康は、この土御門御所の整備を行い、内裏の

まわりに公家邸宅が集まりはじめました。江戸時代になると内裏の周辺に公家の邸宅がますます集中しました。図1は延宝五年(一六七七)

に出版された「新改内裏之図」という古地図です。いまの京都御苑の範囲が描かれています。この範囲に示された公家邸宅は約八十万軒。京都御苑の面積は約九十一万

平方メートルですから、単純に計算して一軒一万平方メートル以上ということ、にはなりません。内裏(京都御所)もあれば仙洞御所もあり、宮家もあれば近衛さんや一条さんのように広い敷地もあります。実際の公家邸宅は、もつとも狭いところで敷地面積千平方メートルくらいなので、現在の建売住宅よりはもちろん広いのですが「豪邸」というには少し難があります。

内裏や公家邸宅のまわりは決して閉ざされた場所ではありませんでした。商人はお得意先のお公家さんを訪ねる必要がありますし、観光客も歩きまわりました。参内(現在でいう出勤)する公家の行列を拝観して国へのみやげ話にする、こんな人々もうろろしていました。図2は「拾遺都名所図会」という江戸時代中頃の京都案内書の絵です。観光客がひざまづいて公家の参内を拝観している様子です。その横にはお茶の振り売り(移動茶店)である松垣茶屋が

明治六年西京大博覽會圖繪



図 4

描かれています。

高山彦九郎が三条大橋から禁裏（京都御所）の方をながめ、破れた築地塀のすきまから見るともしびに、朝廷の衰微を悲しんだという逸話があります。しかし、禁裏や公家町はきちんと管理されメンテナンスされた空間であり、築地塀が破れたまま放っておかれることはない。そもそも三条大橋からでは町家に邪魔され、それに遠すぎて禁裏の灯火が見えることはありません。

図3は幕末、元治元年（一八六四）大火前後の様子です。この頃の公家屋敷の数は百二十軒くらい。増えているのは、新しい家が創設されたりして、お公家さんの数が増えているからでしょう。この中を坂本龍馬が歩いていたら、かどうかはわかりません。

明治になると天皇が東京へ移ってしまいます。華族になった公家も東京へ去り、空き家になった邸宅がずらりと並んだ、ちよっと不

不動産高価買取宣言！

不動産屋をお探しですか？



京都プラン株式会社

〒603-8303
京都市北区築野十二坊町31番地
TEL 075-462-0017
URL <http://www.kyotoplan.jp>

売買・リフォーム・賃貸管理・不動産運用

耳鼻咽喉科

鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入
441-0675



診療時間

月 火 水 金 土

午前9時～12時
午後4時半～7時半

休診：土曜午後、木・日・祝

気味な光景があらわれました。京都の中心に広い空閑地ができたのです。

■京都御苑の誕生

この空間を利用して明治のはじめに博覧会が行われました。内裏や仙洞御所では宝物が展示され、主のいない公家邸宅では相撲や壬生狂言や舞楽の興行が行われました。図4はその光景を描いた刷り物です。近衛家の跡では遠眼鏡(望遠鏡)が人気を集め、名物系桜の下には床几がしつらえられています。大きな公家邸宅跡はどこも人でいっぱいです。

この図にはほかに上京の名所が二つ描かれています。左下に堀川中立売の中立売橋。今も残るアーチ型石橋は明治六年に完成したものです。そして、上端の御幸橋は慶応三年に架けられた荒神橋です。博覧会会場だけではありません。旧公家町はいろいろな用途にあてられました。図5は明治十二

年に出版された「京都区組分細図」(部分)です。「画学校」「観象臺」(気象台)、「博覧会場」といった文字が見えます。博覧会場というのは恒久的な展示施設で、みやこめつせの前身だといえます。

一方で明治十年代から、この地を保存する事業が京都府の手で実施されました。明治天皇の意志を受けたからだといわれています。明治天皇は、御自分の御陵を京都(とはいつても桃山の地ですが)につくることを熱望し、生まれ育った京都との縁を大切に考えていまし

た。

保存事業をはじめると、まず保存する範囲が北は今出川通、西は烏丸通、南は丸太町通、東は寺町通に設定されました。次に公家邸宅が撤去され、外廻りを土塁と石垣で囲み、樹木や花木等

が植えられて京都御苑の基礎がつくられました。さらに蛤御門や堺町御門など九つの門は、江戸時代には現在位置より内側(京都御所の方)にあったのですが、これを外周道路に面するところ、つまり現在の位置に移動させています。

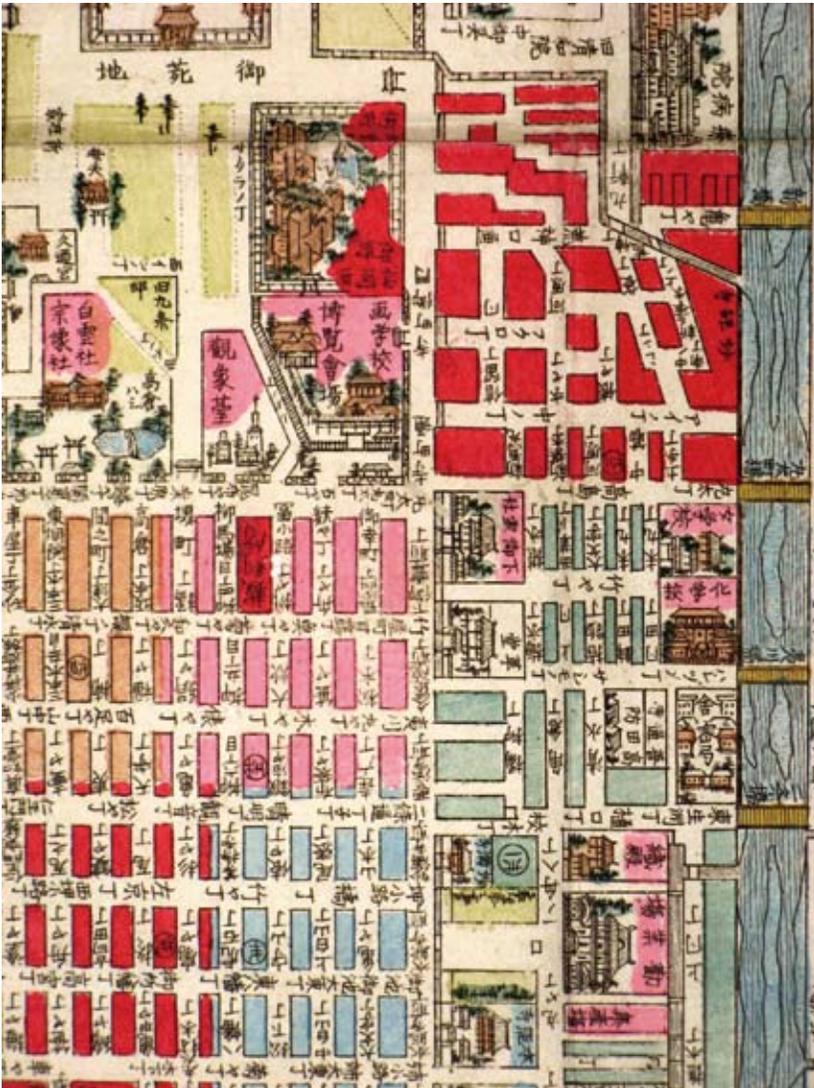


図5 京都区組分細図(部分)(明治12年)

そして、明治十一年に「御苑」と称することが決まりました。

最終的には、大正四年の大正天皇即位大札に際して整備された姿が、現在の京都御苑に直接つながっています。図6はこの即位大札時の京都御苑の図です。朱色の線で示したのが江戸時代末の公家

町の家並です。京都で即位礼を行うのは明治二十二年の「皇室典範」を根拠としていますが、後知恵でいえば即位大札の会場を準備するために京都御苑をつくったようなものではないでしょうか。

(京都市歴史資料館 伊東宗裕)

京都市歴史資料館では平成二十二年三月七日(日)まで「絵図に見る京都御苑」展を開催しています。京都御苑の歴史を江戸時代の古地図で示す企画です。この記事とも関連し、どうぞご覧ください。



図 6

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社/京都市中京区烏丸通三条下ル ☎ 075(221)4000
フリーダイヤル ☎ 0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

北ブライトホール (堀川紫明) 京都市北区紫明通堀川東入 ☎ 075(414)0420
中央ブライトホール (玉泉大和路) 京都市東山区五条通大和大路 ☎ 075(551)5555
南ブライトホール (堀川八条) 京都市南区堀川通八条下西側 ☎ 075(662)0042
西ブライトホール (五条西大路) 京都市右京区五条通西大路西入南側 ☎ 075(322)0042
烏丸ブライトホール (因幡薬師) 京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎ 075(351)7724
宇治ブライトホール (宇治横島) 宇治市横島町(文教大学前) ☎ 0774(20)0042
滋賀ブライトホール (大津) 大津市朝日が丘1丁目 ☎ 077(523)0042

美を創る



横山竹材店

横山 伊助

上京区油小路通下長者町上る亀屋町

横山竹材店は伊助氏をはじめ息子の富男氏、孫の裕樹氏と三代が一緒に仕事に携わっておられる。伊助氏は、慶応年間創業以来五代目、昨年は京都府伝統産業優秀技術者表彰（京の名工）を受けられた。

テレビ時代劇「水戸黄門」シリーズで、代々の黄門役が持つ杖を見ておられるだろうか。この杖を作り続けてきたのが横山竹材店の会長で八十五歳の横山伊助氏なのである。それぞれの役者の体形に合わせて、西京区の大原野の竹林から亀甲竹を選んで作ってこられたのであるが、その作品は代々の黄門役がシリーズが終わるとともに持ち帰られるとのことである。国民的な正義の味方の支えを作れたのは竹屋の誇りです、と伊助氏。

京都の竹工芸について伊助氏は次のように語られている。京都は良質の竹の産地といわれる。これは四季がはつきりしており、積雪もあまりないところから生育にも適している環境であるからだ。一方、京都は竹を扱うネットワーク

クが発達している。竹を藪で切る、それを製品にする、数寄屋に使われるように加工する。まさに京都にはそれぞれの仕事、が密接に関わりあうシステムが仕込まれている。そうして出来上がった製品が数寄屋に使われ、その姿を見るのが何よりも喜ばしいと感じる想いが、今の京都のネットワークを支えている。昔から伝わってきたことを忠実に守ってきた根つからの職人の集まりである。それは竹だけではないであろうが、もう少し深く述べてみると、竹は特別の意味を持つてきた。生活文化として、さまざまな場面で使われ、宗教、茶道具類、壁下地の骨組、竹垂木、壁止連子窓、下地窓に添えられる力竹、また床の間にもしばしば使われる。しかし、このようにして使われるように加工することが難しい。この加工は京都にしかできない。

この一文で、伊助氏の思いはすべて語られていると聞いてよい。終戦を迎えて二十一歳で家業に就かれた頃は建材としての竹は全く売れず、竹を切つて店先に置くと焚物に買われていったという状態であった。これでは、と思い東京へ出てみると、戦災復興のために竹が建材として使われており、京都から全国に竹の製品を供給することを思いつかれた。店に置かれているカタログには、一つ一つの製品の写真が掲載されている。京都にしかない竹の加工技術を求める注文に応じて全国に販売しておられる。日本全国に向けた竹工芸を主力とする地方取引を通じて伝統工芸を売

るのだという意気込みが感じられた。
お訪ねしたのは十二月、裏千家の茶庭に納める製品製作の真最中であった。



京都・花灯路で使われる「京銘竹露地行灯」は横山竹材店でつくられている。



富男氏



裕樹氏



新町通

新町通―考えてみれば京都には
ては不思議な通り名です。どうし
て「新町通」なのでしょう。も
ともこの道は平安時代以来、町
尻小路といわれてきました。平安
時代の初期、弘仁九年（八一八）
に修理職という役所が令外の官と
して設けられます。これは内裏の
宮殿などの修理・造営を掌りまし
た。その場所は左京一条三坊三
六町で、北は近衛大路（出水通）、

上京の史蹟 その20

新町通

南は中御門大路
（榎木町通）、東
は室町小路、西
は西洞院大路で
囲まれる二町四
方でした。その
一廓を修理職町
といい、真中を
通る道を町小路
といいました。

木工・檜皮工・

瓦工・石灰工などの職人の工房や
住居が密集したので、周囲の公家
の大邸宅と区別して「町」と呼ば
れるようになり、南北に抜ける道
を町小路というようになったので
す。その北端を町口、南端を町尻
といい、さらに南へ続く小路にも
新しい町が形成されて、町尻小路
の名ができ、やがて新町通の名が
つけられたと考えられます。

現在の新町通は紫野の玄以通か
ら南は久世橋通に至る九キロに及
ぶ長い通りで、中京区から下京区
にかけてはほとんど直線で、祇園

祭の時には、遠くからでも山・鉦
の駒形提灯の明かりが望めます。
しかし上京区内の新町通は非常に
複雑で一本につながらず、東へず
れたり西へずれたりして整然とし
た街路になっていませんでした。
それが昭和二十年の終戦直前に強
制疎開で家屋を立ち退かせた跡を
整備して道路を拡張して一本につ
ながったのです。ところどころに
三角形の空地が見られるのは、そ
の名残りです。

もともとの新町通は鞍馬口通で
終わり、そのあたりを新町頭とい
いました。その先は田んぼ道がつ
づいていましたが、昭和前期の都
市計画により周囲の道路とともに
直交した街路になりました。東側
には擁翠園、西側には少し離れて
妙覚寺や妙頭寺があります。擁翠
園は京都府金事務所センターの敷地
でした。廃止されたあと庭園の存
続が心配されましたが、目下庭園
を生かした施設が建てられつつあ
ります。擁翠園は刀装の金工を業

とした後藤長乗の邸跡で、三井家
の別邸となり郵政省（当時）に引
き継がれました。もとは後藤氏の
祖先の領地でしたが、鎌倉時代に
北条氏が没収し、室町時代には管
領細川満元の屋敷となり、死後岩
栖院という寺に改められました。
徳川家康からその旧領であったの
で後藤長乗に与えられたのです。
庭は池泉回遊式で、満元が足利義
満の北山第の余材で造営したと伝
えています。実際はかなり改修
が加えられているようです。上京
区内の名園の一つとして、いつま
でも美しく保存したいものです。

宝慈院

一筋東の衣棚通寺之内上るに
は、千代野御所と称される宝慈院
があります。非公開の尼寺ですが、
狭い境内に大きな収蔵庫が設けら
れています。実はその中に三メー
トル近くある丈六の木造阿弥陀如
来坐像と無外如大座像が安置され



① 宝慈院

ているのです。無外如大は宝慈院を開創した尼僧で、禪尼の頂相(禪僧の肖像)彫刻として珍しい作品で、没年の永仁六年(一二九八)前後の作と思われます。阿弥陀如来坐像は平安時代末期か鎌倉時代初期に造顕された上品上生の定印を結ぶ藤原様式を残す寄木造の仏像です。ともに重要文化財に指定されています。

無外如大は鎌倉幕府の金沢実時の子、顕時に嫁した女性で出家後、弘安八年(一二八五)に西陣に景愛寺を創建しました。応仁の乱で罹災後、支院であった宝慈院が法灯を受け継ぎ、如大尼の幼名千代

野に因んで千代野御所といわれるようになりました。

光照院

これも尼門跡の一つ、光照院が新町通寺之内下るにあります。後伏見天皇の皇女進子内親王が正平十一年(一二五六)に剃髪得度して自本覚公と号し、室町一条に浄台禅律の四宗兼学道場として光照院を創建しますが、応仁の乱で罹災します。その後、現在地の持明院の跡地に再建し、安樂光院と称しました。江戸時代になると度々



② 光照院



③ 三時知恩寺

嚴天皇の皇女見子内親王が崇光天皇の御所であった入江殿を賜わって住まわれた地で、足利義満の娘、覚窓性

火災に遭い、寛政元年(一七八九)には光格天皇の下賜金で復興され、常盤御所の称号を賜われます。現在の本堂(宸殿)は昭和四十三年に古建築を活用して造営されたもので、本尊の釈迦如来立像が阿弥陀如来坐像、開山自本覚尼の像とともに安置されています。

三時知恩寺

新町通上立売下るにある三時知恩寺は、入江御所と称される尼門跡です。いかにも尼寺の佇まいを伝えています。南北朝時代、後光

仙を開基として知恩寺が成立します。自らは二世となり、代々皇女や撰閥家の息女が法脈を伝えました。

室町時代の末、後柏原天皇が宮中で六時の勤行といわれた一日六回の念仏が昼間は行いがたくなり、昼間の三時(三回)の勤行を知恩寺に付託されたために三時知恩寺と称するようになりました。現在の建物は天明の大火後、宮中の恭礼門院の旧殿を賜わって再建

新・古茶道美術品

清昌堂 やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370
東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8
〒162-0856 TEL (03) 5261-4566
FAX (03) 3235-5677

したもので、本堂には本尊阿弥陀如来像や俊しゅん仍じやうが宋から請来したと伝える善導大師像が安置されています。元文元年（一七三六）の近衛予楽院画像は重要文化財、狩野永納筆の花鳥図屏風は京都市指定文化財となっています。

新町通界隈の尼門跡はいずれも厳めしい仏堂と違って住宅風の優しい本堂になっているのも、宮中やゆかりの御殿が移築されたからでしょう。

旧日本電池の外壁

今出川通から北へ突き当たった



④ 旧日本電池記念碑



⑤ 靈光殿天満宮

ところは同志社大学の新町校地になっていますが、その前に最近モニュメントが作られました。ここ

は大正六年に創業にした日本電池株式会社跡地なのです。島津製

作所が大正元年から営業してきた蓄電池工場を母体としてGSバツ

テリーを製造していました。大正十年に完成した地上三階、地下一

階の本社社屋は鉄筋コンクリート造、伝統様式から脱皮したセツ

ション式の外壁をまとい、エレベーターや暖房設備をも備えた、

当時としては先進的な建物でした。昭和三十四年に同志社が購入

した後も臨光館と命名し、増築・

改修を加えなが

ら活用してきたのですが、建設

後八十年を経て取り壊されました。そこで、三

階正面の外壁を再現した記念碑

が平成十七年に

建てられ、当時の社屋の写真が銘板として嵌められています。

靈光殿天満宮

今出川通から下がった西側に靈

光殿天満宮があります。社伝によ

れば、平安時代の寛仁二年（一〇一八）に菅公六世の孫で老松神と

いわれた菅原定義によって河内国若江の靈跡に菅原道真を祀りまし

た。この地は菅公が太宰府へ左遷された時、一条の靈光が天から

降ったという靈光殿の地で、天満宮靈地十ヶ所の第二とされてきま

した。弘安四年（一二八一）の蒙

古襲來の時、祠官若江家の元祖で

ある菅原在公が異国降伏を当社に祈ったことよって「天下無敵必

勝利運」の勅額を賜りました。今も石鳥居にはこの文言を記した

額が懸かっています。その後、若江家が代々の祠官をつとめていま

したが、応仁の乱に遭い御神体を東寺に遷します。やがて江戸初期

になって後水尾上皇の院宣により若江家が再興され、塔之段を経て宝暦十一年（一七六一）には信徒の願望により徳大寺殿町の現社地に移転しました。現今の本殿は明治五年に近衛家より鎮守社旧殿を拝領したものです。

京都府庁界隈

下長者町通から南は京都府庁を

中心とした官庁街が形成されています。その広大な敷地は文久二年

（一八六二）、会津藩主松平容保かたもりが京都守護職に任じられた時、その

役邸とするために、下長者町通一

新町通一丁下立売通一西洞院通に囲

まれた町地を買収しました。慶応三年（一八六七）、大政奉還によ

り京都所司代と町奉行を廃し、京都裁判所に引き継がれますが、そ

の後、京都府と改められます。明治十八年に京都府庁が、二条城か

ら今の地に移転して来ました。中央部にある旧本館は、現役

黒田正玄家の竹芸(下)



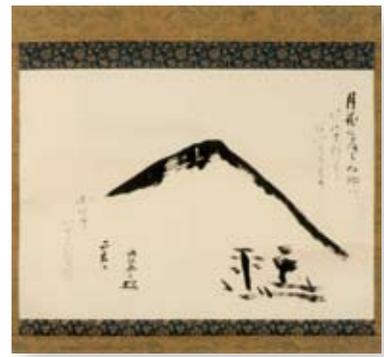
竹二重切花入 庸軒在判

十三代の当代は昭和十一年に誕生、幼い頃からただ一人の跡取りとして育てられました。成長するとともに自分の置かれている立場が分かってくるにつれ、一時は逃げ出したい思いに駆られます。そのため、これまでと違う世界を見てみたいという思いもあって、先代を説得して京都を離れて東京の早稲田大学へ進学して政治の道に入りたいと思うようになります。

四畳半一間に、トイレは共同、風呂は銭湯、朝と夜の食事は賄付という下宿生活は、今となっては貴重な集団生活だったと思ひ返されます。昭和三十五年に卒業しても就職は困難で、なかなか進む道も決められず、結局は自分のさだめを悟り、家業を継ぐ決意をして京都へ戻ってきました。そして、千家十職を継ぐ先代の大西浄心さん、飛来一閑さん、当代の奥村吉兵衛さん、土田友湖さんの五人が揃って表千家の先代即中齋宗匠の要請で出仕し、昭和四十一年には先代から家督を譲られ、以来、竹工芸一筋に精進をつづけて来ました。

ことから始め、それが出来るようになるまで竹箸を削り、小刀が自分の思うように動かせるように毎日修業を繰り返しました。小刀がうまく扱えると削りカスが小さくなるのに、最初は鯉節のような細かいものばかりなのです。竹箸の後には同じく節のない楊枝ようじ、少し難しい菜箸さいばしや両細りょうほそ(竹箸の両端を細く削り扁平に作られる)、天節てんがし(竹の節が上部にある)などを削るようになります。

柄杓ひしやくは一番主要ですが、もともとと釜の口の大きさに合わせて作られてきました。削りの柄杓は黒田



吸江齋・大綱和尚両筆 富士画賛 (正玄へ)

しみじみと心のかよう 贈りもの

<http://www.toraya-group.co.jp/>

蔵 くらや

¥2,500で食べ・飲み放題!!

ブランドシアのディナーbuffet

"PRANDIA" DINNER BUFFET

京都ロイヤルホテル&スパ1階のレストラン"ブランドシア"では、2ヶ月毎にテーマを設けて、ディナーbuffetを開催中。

約20種類のお料理と4種類のアルコール&ソフトドリンクが食べ放題・飲み放題で、お1人様なんと¥2,500!! ぜひお気軽にご利用ください!

毎日 17:30~21:00 (90分制:17:30~/18:00~/19:30~/)

食べ放題+飲み放題 お1人様 ¥2,500

※表記料金にはすべて税金・サービス料を含んでおります ※ご予約優先
※各種割引・他券等との併用不可 ※写真はイメージです

ご予約・お問合せ: レストラン"ブランドシア" Tel.075-223-8973 (直通)

地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分

京都ロイヤルホテル & スパ

家の仕事で、千利休好みの「蓮華れんげ指形さしだま」や金森宗和好みの「宗和形」などがあります。

竹は毎年十一月頃に切ります。ふた月ほど乾燥させて油抜きをします。竹の中には虫が卵を産みつけていますが、油抜きの折の炭火によって、かなり奥まで竹を暖めますから虫を殺してしまいません。だから油抜きをした竹には比較的、虫が入りにくいのです。それを四年ほど寝かせします。一年



11 代正玄 石州好 竹水指棚



12 代正玄 即中斎好 ゴマ竹内銀 手桶水指

目はまだ竹の中に水分がありますのでカビが生えるものが出てきます。梅雨頃にカビを拭き取る作業を続けて様子を見、虫は殺虫剤で駆除し、竹を干す時は逆さにしします。竹は水分を上へ吸い上げる習性がありますので、それを逆に利用して水分を下ろすのです。

私共はこれまで様々な道具を作らせていただきましたが、竹は自然のものですから本来持つております素朴な美しさがあると思います

す。茶の湯の用に適いつつ、その美しさをさらに引き出していきたいと思います。そのためには竹の個性の見極めや、その竹が持つ魅力を引き出すための洞察力などさまざまなことが、これまで以上に必要となると思っております。今後もあらゆる茶道具の製作に向けて精進してまいりたいと考えております。

ぼたん鍋と
京料理
畑かく
元祖

京・上御霊前烏丸西
☎七五・四一・〇六一(代)

—いつも新しい感動を—
京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。
さわやかな水のせせらぎが聞こえ、
やわらかな自然光がふりそそぐアトリウムロビー。
7つの多彩なレストラン&バーで、
ブライトン流のきめ細やかなサービスをお届けします。

(客室) 183室
(レストラン&バー)
●京懐石「堂(はたる)」●鉄板焼「播(ひもろぎ)」
●フランス料理「ヴィ・サ・ヴ」●テラスレストラン「フェリエ」
●ラウンジ「クロー・オ・ミディ」●中国料理「花蘭(かかん)」
●メインバー「ムーンシャイナ」

B 京都ブライトンホテル
〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360
ブライトンホテルズホームページ
<http://www.brightonhotels.co.jp/>

葉 匠

本宗 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

上京区の伝統文化をまるごと体験!!

「千年の都の文化を体感しよう」

上京区の次代を担う子どもたちに、千年の都・京都に根付く様々な伝統文化を体感してもらい、伝統文化への理解と知識を深めてもらおうと開催されました。



日本の楽器に触れてみよう(琴・三味線・胡弓の演奏体験)

(七月二十六日、京都當道会会館)

講師 大木富志氏(社団法人 京都當道会・大師範)

能楽おもしろ講座(八月一日、河村能舞台)

講師 河村純子氏(NPO法人 能楽普及協会理事)



香道入門と匂い袋作り体験(八月四日、山田松香木店)

講師 山田英夫氏(株式会社 山田松香木店 代表取締役)



茶の湯文化に触れる(座禅とお茶の体験)

(八月八日、大徳寺瑞峯院)

講師 前田昌道氏(大徳寺瑞峯院住職)



京菓子ー人と人をつなぐものー(和菓子教室)

(九月五日、有職菓子御調進所老松)

講師 太田 達氏(有職菓子御調進所 老松 当主)



kamigyo EVENT kamigyo EVENT kamigyo EVENT kamigyo EVENT

みんなで花を咲かそう活動

～上京区役所玄関前を彩る花々～

来庁者や道行く人々が季節を感じ、安らげる場をつくらうと、ボランティアの皆さんが熱心な手入れを続けています。昨年11月の一斉植替え作業に続き、随時、季節の草花も植えられて、区役所玄関前に彩りを添えています。

皆さんのこうした取組は、草花に親しみながら楽しくまちの美化や環境問題を考える機会にもなっています。この活動に興味をお持ちの方はお気軽に区役所まちづくり推進課までお問合せください。

区役所まちづくり推進課(電話441-5040)



上京区
人権月間

「講演のつどい」

十二月の人権月間にあわせて、十二月十日に同志社大学寒梅館ハーディーホールにおいて人権講演会が開催されました。

今回は、講師にタレントのダニエル・カールさんをお招きし、「〳〵国や人種が違ってても〳〵周りの人や社会への思いやり」をテーマに開催しました。

日本とアメリカとの文化の違いを、奈良・京都・山形など日本各地に滞在したご自身の経験談を交えながら、流暢な山形弁で話していただきました。



難しく考えてしまいがちの「人権」について、ユーモアあふれる語りでお話しいただき、とても和やかな講演会となり、外国籍市民等の方々とお互いに理解し合うための接し方について学ぶことができました。

訂正とお詫び

■前号(37号・平成21年8月15日発行)の訂正について

前号(37号)2ページ下段の文中「明治神宮絵画館(現・明治神宮宝物殿)」並びに3ページに掲載の壁画 蔵所として「明治神宮宝物殿」とありますのは、「聖徳記念絵画館」の誤りでした。お詫びして訂正します。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい

¥5,000(税込)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン

11:30~14:00

毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております

おひとり

¥1,200(税込)



名物ゆどうふ 南禅寺 **とらふ**

JUNSEI
左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

酢一筋の商い、伝統の滋味。

きょう 伝統から きたるへ

京・西陣 孝太郎の酢

(有)林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



花にまつわるエピソード...



季節も添えて演出します。

心のこもった贈り物 Flower Gift
~花束

アレンジメント
グリーンバスケット
スタンド花 etc. ~
フラワーアレンジメント教室 開催中!

本店 京都市上京区烏丸通今出川下ル tel 075-414-8700
fax 075-414-7787
フリーダイヤル 0120-46-8700

西院店 京都市右京区西院東浄和町 1-1 tel&fax 075-323-1387
長岡店 長岡京市 1丁目セブン通り tel&fax 075-957-0187
大津店 大津市ロイヤルオークホテルス&ガーデンズ内 tel&fax 077-545-5587

本店2FにてCafeも営業しております。 <http://www.hanakobo.co.jp>



創立以来七十五年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手にします。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/

京料理

京都 祇園

花郷

はなさと

◎昼の膳
八坂(点心懐石)三、一五〇円
白川(ミニ懐石)四、二〇〇円
鴨川(懐石料理)五、二五〇円
◎夜の膳
舞妓御膳... 八、四〇〇円より
八毛懐石(夏季限定)二〇、五〇〇円
(各税込サ別)





S.46 上京区民茶会



S.44 第5回上京区民薪能

上京区文化振興会は 発足以来50年余、 これからも上京区の 文化振興に貢献します。



上京区文化振興会は、昭和33年に結成されて以来、「上京区内の伝統文化の継承と文化の育成強化を図り、文化的な事業を通じ、教養の普及向上により明朗な文化生活の高揚に寄与すること」を目的として、様々な文化事業の開催を通して上京区の文化の普及と啓発に努力してきました。

昭和30年代から50年代にかけては、「古文化財鑑賞会」、「地域コーラス交歓音楽会」、「レコードコンサート」、「能・狂言の夕べ」、「七夕祭鑑賞会・写真コンクール」、「民謡おどりの夕べ」などを開催し、上京区の文化の普及啓発の牽引役として力を注いでまいりました。また一方で「民謡踊を習う会」、「きもの着付教室」、「人形教室」、「座禅入門講座」といった文化教室を通じて区民の皆様の文化生活の向上につとめてきました。毎年開催している上京茶会と上京薪能は、いずれも昭和40年からはじまったものであり、以来45年の長きにわたって上京区を代表する文化事業として開催しています。

また、上京の豊かな歴史と伝統に育まれた質の高い文化を身近に感じていただこうとの思いから、「上京史蹟だより」を昭和51年から平成3年までの間、年4回発行してきました。この冊子をより充実したものとして区民の皆様にお届けしようと、本冊子「上京－史蹟と文化」が平成4年に誕生し、以来年2回発行しております。

本号と前号は上京区130周年記念特別保存版です。これからも、皆様に親しんでいただける冊子となるよう努力を重ねてまいります。

主な事業

- 「上京－史蹟と文化」の編集・発行
- 春・秋の表千家・裏千家の懸釜による「上京茶会」
- 能・狂言・琴・舞楽を野外で鑑賞していただく上京の秋の風物詩「上京薪能」
- 自然や環境について考えていただくきっかけづくりとして、区役所の玄関を季節の花々で飾る「みんなで花を咲かそう」活動



H.21 上京薪能



「みんなで花を咲かそう」活動



H.21 上京茶会